



学校教育

○子ども課学校教育係 ☎ 0943-32-1194

学力・学習状況調査の結果と
地域とともにある学校づくり

4月17日(木)、文部科学省が
全国の公立学校の小学6年生
と中学3年生を対象に「全国
学力・学習状況調査」を行
ました。

この調査は、全国の児童生
徒の学力や学習状況を把握・
分析し、教育施策に生かすこ
とが目的です。成果と課題を
検証することで、学習指導の
充実や学習状況の改善に役立
て、継続的な検証改善サイク
ルを確立していきます。

今年度の調査の特徴として、
中学校の理科でタブレットを
使った回答様式を試験的に導
入したこと、標準化得点での
公表を廃止したことなどが挙
げられます。

7月31日(木)に調査結果が公
表されましたので、広川町の
結果をお知らせします。

学力調査

小学校は国語・算数の2教
科、中学校は国語・数学の2
教科で行われました(理科は
試験的に導入)。

結果は、平均正答率で小
学校が国語
0・8 ポイント、

学習状況調査

学習意欲や生活の諸側面な
どについて、小学6年生が75
項目、中学3年生は77項目の
調査がありました。

各項目で高い割合を示して
いる児童生徒ほど、学力も高
いという結果が報告されてい
ます。

算数が5・0ポイント全国
を下回り、中学校は国語・数
学とともに3・3ポイント下
回りました。

表 学習状況調査の結果(一部)
児童数・生徒数の割合()内は全国平均との比較

	全国平均を上回ったもの	全国平均を下回ったもの
小学6年生	困りごとや不安を先生に 相談できる 57.5% (+24.4%)	朝食を毎日食べる 79.9% (-3.4%)
	先生は間違えた・理解し ていないところをわかる まで教えてくれる 65.4% (+17.7%)	5年生までの授業で、 ICT機器をほぼ毎日活用 した 20.7% (-3.8%)
	将来の夢や目標を持っ て いる 74.9% (+14.2%)	読書は好き 25.1% (-11.3%)
	自分にはよいところがあ ると思う 64.2% (+16.9%)	家に100冊以上の本が ある 19.0% (-11.9%)
中学3年生	学習塾や家庭教師の先 生に教わっていない 49.1% (+8.9%)	平日1時間以上勉強する 45.1% (-16.5%)
	友達関係に満足して いる 64.9% (+8.5%)	休日1時間以上勉強する 38.7% (-19.2%)
	困りごとや不安を先生に 相談できる 54.4% (+22.5%)	2年生までの授業で、 ICT機器を週1回以上 活用した 72.5% (-19.7%)
	毎日、同時に寝る 43.9% (+9.9%)	PCやタブレットなどの ICT機器を使って文章を 作成できる 19.3% (-17.1%)

学校へ行こう! ~小・中学校を公開します~

11月1日(土)を「広川町教育の日」、11月1日(土)～14日(金)の2週間を「広川町教育週間」とし、さまざまな学習活動や文化行事を行います。

この教育週間中は、町民の皆さんができる学校でも自由に授業などを参観できるように設定し、教育活動を積極的に地域に公開します。

※参観の際は、各学校が用意する受付簿に記名をお願いします。写真・動画の撮影はお控えください。

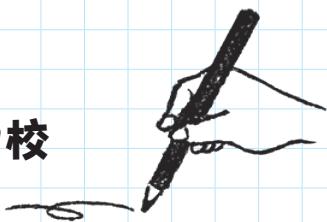
●持とう「私の夢」講演会

11月7日(金)、11:00～12:30
に広川中学校体育館で、広川中
学校出身のadidasJAPAN株代表
取締役・萩尾孝平氏の講演を行
います。誰でも参加できますので、
ぜひお越しください。



Q. 地域とともにある学校づくりとは？

A. 学校・地域・保護者が協働してつくる学校



【地域とともにある学校づくり】 り～夏休み中の地域学校協働活動～

「地域とともにある学校づくり」とは、学校が地域社会の一員として、地域や保護者と連携してつくる学校のことです、子どもたちをみんなで見守り、育てる協働のかたちです。

広川町では、地域学校協働活動と学校運営協議会を通じ、地域全体で子どもの学びを支え、学習支援や体験活動を広げています。これは、学校と地域が一体となつて目標設定を行い、透明性の高い評価を通じて、教育と地域づくりを相互に高める持続可能な基盤を築くことを目指すものです。

学校は、保護者や地域住民と教育目標を共有し、地域の「ひと・もの・こと」を活用することで、社会に開かれた教育課程を実現します。普段できない体験活動などの多様な行事を組み込み、地域住民の誰もが学びにアクセスできる「地域とともにある学校づくり」を推進しています。

●学校運営協議会

広川町では、3小学校1中学校を一つのコミュニティと考え、学校運営協議会を設置しています。学校と地域、保護者が協働で子どもたちの豊かな成長を支え、「熟議」「協働」「マネジメント」の3つの視点で行われます。

8月29日(金)に開催した第3回協議会では、中広川小学校と上広川小学校を視察し、学校の運営方針が教育活動に反映されているかを確認しました。

●地域学校協働活動

子どもたちが生涯にわたつて自らを高め、豊かな人生を送れるよう、主体的に学ぶ生涯学習の充実に努めています。その一つの取り組みとして、地域学校協働活動があり、夏休み期間中に次のような活動を行いました。

【上広川小学校・学び道場】

上広川小学校で、広川町地域学校協働本部の事業である「夏休み学び道場」を7日間開催しました。

対象は、上広川校区の5・6年生17人で、地域のボランティア24人、大学生・高校生13人にも参加してもらいました。

夏休みの学習に加え、地域の人気が先生となり、「習字」「体操」「多文化共生」などの多様な学習を行いました。

【子ども会リーダー研修】

大自然の中で団体生活を通して、社会性・自主性を培い、青少年リーダーを育成することが目的です。

8月8日(金)～10日(日)の3日間、福岡県立少年自然の家「玄海の家」で、子ども会リーダー研修会を行いました。

町民会議推進部会サポート

のもと、高校生シニアリーダーが企画・運営を行い、中学生ジュニアリーダーが小学生の班長となり、海水浴や夜の冒険、キャンドルの集いなどのレクレーションを楽しみました。

【広川町子ども体験教室】

「ふるさとのよさを知ろう」をテーマに、ゴットン館での「そば打ち体験」、ゆげ製茶での「お茶物語」、森山紡工房での「久留米紡ワーケーション」、「古墳公園資料館での「銅鏡作り」などの体験活動を行いました。



とや広川町の広報紙に興味を持つてもらうこと、学年に応じて主体的に学ぶ力を育むことが目的です。

7月24日(木)・25日(金)の2日間、取材や文章について学び、子ども記者が副町長にインタビューしました。詳細は、今月号の特集をご覧ください。